

## 東日本大震災による人口変動への影響(5)

### ～大阪圏は転入者数の継続的な増加により、5ヶ月連続の純増～

- 先日発表された総務省「住民基本台帳人口移動報告」の7月データをもとに、東日本大震災後の人口変動の傾向についてみてみたい。まず、三大都市圏における転入超過数（転入者数－転出者数）の動きについては、大阪圏、名古屋圏の転入超が5ヶ月連続となった一方、東京圏の転出超の動きも2ヶ月連続となっている。  
 （東京圏：東京、神奈川、埼玉、千葉、名古屋圏：愛知、岐阜、三重、大阪圏：大阪、兵庫、京都、奈良）
- 大阪圏は、最近3ヶ月は数百人単位の転入超と、3、4月よりも規模は小さくなったものの、「転出が前年よりも減少し、転入が増加する」（出て行く人が減り、入ってくる人が増える）動きがほぼ定着したと考えられる。特に、7月は関西で節電が始まり、転入の動きが滞ることも予想されたが、結果としては7月も前年比で4.9%増と、増加傾向が続く形となった。
- 大阪圏への転出入の動きを地域別にみると、やはり最も大きな変化がみられるのは対関東での動きである。震災前はほぼ千人単位で転出超が続いていたが、震災後は明らかなトレンドの変化がみられる（5月は転出超となったが、関東からの転入数自体は前年よりも2327人増えている）。
- この背景には間違いなく、本社機能の分散化、システム拠点の分散化の動きがあると考えられる。依然としてオフィス需要の増加などには結びついていないものの、あくまで「機能の分散」であり、完全なる「移転」ではないため、企業単位では数人での小さな移動にとどまることが想像される。
- 今後もこれらの動きは一定の速度で進むものとみられるため、年間ベースみた場合、大阪圏は1万人に近い転入超となる可能性もあると考えられる（1～7月では7672人の転入超）。

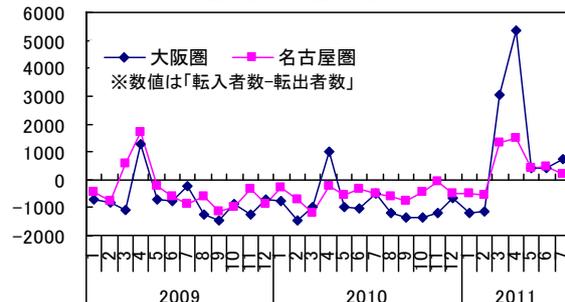
三大都市圏における転入超過数の推移

	2011年						
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
東京圏	2103	1755	41885	19774	3722	-1207	-2817
大阪圏	-1181	-1142	3070	5339	397	425	764
名古屋圏	-522	-561	1307	1472	430	454	197

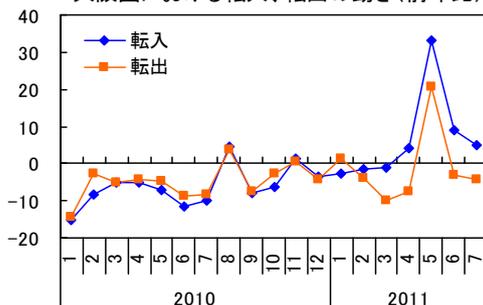
（出所）総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※転入超過数・・・転入者数－転出者数

大阪圏、名古屋圏の転出入の推移



大阪圏における転入、転出の動き（前年比）



大阪圏の対関東における転出入の動き

